

---

# 絵の具

リンググマ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

絵の具

### 【コード】

N9884P

### 【作者名】

リンググマ

### 【あらすじ】

連続殺人事件が起こる夜の街で警官は一人の少女に出会う。

(前書き)

怖くなく面白くもないぐだぐだな本格的でもない話なのでご注意下さい。

連続殺人事件が頻繁に起こるある街のレンガ道、警官がふと赤く伸びる道を発見した。その道の先には赤い何か染み付いたダボダボの服を着た黒髪の女の子がいた。警官は尋ねた。「この道はいつたいなにで描かれているんだい？」少女は答えた。「紅・・赤い絵の具」警官は地面を見ながら言った。「それにしてこんなに鮮やかな絵の具どこで売ってるんだい？」「やだわ。おまわりさん。その絵の具は、人が生まれてからずっと持つてる物よ…」「それに段々と絵の具の色が赤茶けた色から鮮やかな色に変わってきたような…」

そう言つて顔を上げた警官の眼に映つたのは、何か黒くて大きな物体が見えただけ。その眼が映した物はそれで終わり…。後には残されたのは、警官の帽子だけだった。

今宵も黒髪を赤く染めし少女は紅い道を作りながら夜の街を練り歩く。

「フフツツ、思いがけない所で新しい絵の具が入っちゃった

それに、こんな素敵なお器も！」

少女が何故紅い道を作るのかは誰も知らない。

(後書き)

こんなぐだぐだな面白くもない話を最後まで読んでくださって誠にありがとうございます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9884p/>

---

絵の具

2011年1月13日08時38分発行